

産学官協創による道の駅の資源ベース拡大 に向けた検討と課題抽出に関する一考察 -高知県黒潮町「道の駅 ビオスおおがた」の事例から-

*A study on the investigation and identification of issues aimed
at expanding the resource base of roadside stations through
industry-academia-government collaboration*

*-A case study of Bios Ogata, a roadside station in Kuroshio Town,
Kochi Prefecture-*

戦略的協創イノベーション研究所 松田 侑也

Strategic Collaborative Innovation Institute Yuya MATSUDA

戦略的協創イノベーション研究所 村中 海斗

Strategic Collaborative Innovation Institute Kaito MURANAKA

戦略的協創イノベーション研究所 村中 優菜

Strategic Collaborative Innovation Institute Yuna MURANAKA

富士通 Japan 株式会社 天野 隆興

Fujitsu Japan Ltd. Takaki AMANO

豊橋技術科学大学 藤井 享

Toyohashi University of Technology Toru FUJII

Keywords Roadside Stations, Kuroshio Town, Kochi Prefecture, Strategic Collaborative Innovation

1. はじめに

わが国の「道の駅」は、全国に、1,230 か所 (2025 年 6 月 13 日現在)が存在している。道の駅は国土交通省が管轄し、第 1~3 ステージの指針が出させおり、第 1 ステージ (休憩施設)、第 2 ステージ (レジャー等の目的地)、第 3 ステージ (地域住民の憩いの場) という目的が定義されている。

一方で、高知県黒潮町は、近年過疎化が進行し、そのための対策として、関係交流人口を増加させるために、「道の駅 ビオスおおがた」での資源ベースの拡大による観光政策を検討している。

本研究では、同道の駅を研究対象として、現状の強みと特徴を明らかにさせた上で、その拡大施策を提示すると共に、地域創生に向けた社会実装

化の政策を具体的に示すことを目的とする。そのために、黒潮町の関係交流人口の1つの柱である観光客（サーファー）への顧客満足度に関するアンケート調査・分析を行う。その上で、官（黒潮町町役観光政策課・地域創生課）、産（「道の駅 ビオスおおがた」及び、富士通 Japan の地域創生推進部門）へのインタビュー調査を行い、関係交流人口を増加させるための施策を検討する。

本研究では、「組織が意図的に資源ベースを創造・拡大・修正する能力（ダイナミック・ケイパビリティ理論）／A dynamic capability is the capacity of an organization to purposefully create, extend, or modify its resource base.

（David J. Teece 他）」の理論的枠組みをベースに、高知県黒潮町「道の駅 ビオスおおがた」の事例から、産学官協創による道の駅の資源ベース拡大に向けた検討と課題抽出を行う。

2. 研究対象の概要

高知県黒潮町は、人口 9,990 人（2024 年 6 月 30 日時点）、面積 188.46 km²の町で、「大方町（おおがたちょう）」「佐賀町（さがちょう）」が合併し、2006 年 3 月 20 日に誕生した。黒潮町の特徴は、美しい海岸線と豊かな自然を活かし、ホエールウォッチングや、サーフィンなどのマリナクティビティ、天日塩づくりやカツオのタタキづくりといった体験型観光を提供している他、土佐西南大規模公園を活用したスポーツツーリズムや、津波被害に備えた防災文化を学ぶ防災ツーリズムも推進し、多くの観光客を惹きつけている「観光対応型」の地方都市である。

本研究対象である「道の駅ビオスおおがた」は、太平洋に面した黒潮の香り漂う場所に位置し、徒歩 1 分で海にアクセスできる利点を持っている。直売所では、高知県の特産品や、地元産の新鮮な野菜・魚介類が豊富に揃い、オリジナル商品「かりんとまんじゅう」や「黒潮レモネード」も人気である。食堂では宗田節ラーメンや、かつおのたたきバーガーなど、魅力的な料理が楽しめる特徴もある。

3. 観光客（サーファー）へのアンケート分析からの提言

黒潮町に訪問したサーファー（全 206 名）に対して、37 項目のアンケートを実施した。その結果、以下の提言を示す。「道の駅 ビオスおおがた」の資源ベースの拡大に向けて、サーファーに特化せず、1泊 3,500 円～8,000 円程度の安価な素泊まり（1 人用）施設を設ける。シャワー、入浴用施設、24 時間買い物できる設備（自販機）を設ける他、食事を提供する喫茶コーナーの新設が必要である。

4. 産学官協創による現地インタビュー調査からの提言

産学官協創活動として、2025 年 3 月 3 日に、黒潮町町役場、道の駅ビオスおおがた、美術館を訪問した。現地インタビュー調査の結果、今後の方向性として、地域の特性を活かした観光戦略と、地元住民のための施設の設置が提案された。

観光政策では、サーファー向けの宿泊施設（トレーラーハウス）の設置や、防災ツーリズム、スポーツツーリズムの強化である。さらに、地元の人々の憩いの場として、海に見えるビーチ直結の喫茶店（美術館）、クジラが見える望遠鏡設置、トレーラーオフィス式喫茶店等の設置と、道の駅オリジナルのイベントの定期的開催等が検討施策として上げられた。

5. おわりに

本研究により得られた結果に基づき、高知県黒潮町の観光政策への具体的な政策提言を行っていく予定である。

注

(1) 黒潮町ホームページ

《<https://www.town.kuroshio.lg.jp/>》

(2) 渡部 直樹（編）、David J. Teece（著）

『ケイパビリティの組織論・戦略論』

中央経済社、2010 年

(3) David J. Teece” Dynamic Capabilities and

Strategic Management “ OXFORD 2009